

## 予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

## 事業名【新】環境保全型スマート農業技術実証事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農政課 スマート農業推進係 電話番号：058-272-1111(内4023)

E-mail：c11411@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 10,632 千円 (前年度予算額： 0 千円)

## &lt;財源内訳&gt;

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	10,632	0	0	0	0	0	10,632	0	0
決定額									

## 2 要 求 内 容

## (1) 要求の趣旨(現状と課題)

環境負荷低減効果、資材低減効果及び外的要因による食料安定供給への影響低減効果が期待される先進的なスマート農業技術について、生産現場において、実践的な経営の中で実証することで、生産力と持続性確保の両立を図るとともに、海外依存度の高い食料供給の安定化を図る。

## (2) 事業内容

○「スマート農業実証農場」の設置(10,632千円)

試験研究機関等によって開発された、環境負荷低減効果が期待されるスマート農業技術について、生産現場において技術的課題を検証しつつ、環境負荷低減効果と生産性向上効果を合わせ実証することで、生産力向上と持続性確保の両立を図る。

外的要因による食料の安定供給への影響を低減させるため、データを活用し、より効率的に海外依存度の高い農業資材や労働力の削減、自給率の低い作物の生産性向上等を目指す取組の実証を行う。

### (3) 県負担・補助率の考え方

国10/10

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	84	実証検討会有識者謝金
旅費	1,022	実証検討会会議旅費
委託料	9,398	スマート農業産地の設置
使用料及び賃借料	128	会議室使用料
合計	10,632	

## 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略（2019～2023年度）  
Ⅱ-3-(3)-② 「未来につながる農業づくり」の推進
- ・ぎふ農業・農村基本計画（2021～2025年度）  
第6章 将来像達成に向けた取組み
- ・岐阜県スマート農業推進計画（2019～2023年度）  
重点施策（2）技術の実証
- ・岐阜県DX推進計画（2022～2026年度）  
第2章-Ⅲ-12-(1)-② 生育・環境データ等に基づく管理・診断技術による生産管理の高度化

### (2) 国・他県の状況

全国で同様の事業が実施される見込みである。

### (2) 後年度の財政負担

2年間（予定）の実証試験であり、次年度以降も継続する必要がある。

### (4) 事業主体及びその妥当性

スマート農業技術の実証にあたっては、生産者、行政機関及び関係機関が一丸となって取り組んでいくことが必要である。

また、本事業の取り組み成果を県下の産地へ波及させるため、県が主体となって事業を実施していくことが妥当である。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

環境負荷や資材の低減効果、食料安定供給への影響低減効果が期待される先進的なスマート農業技術の導入・普及を進めることで、生産力が高く持続可能な生産体系を確立する。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H30)	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 目標	終期目標 (R5)	
					達成率	
①スマート農業 技術導入経営体 数	168	345	418	455	550	76%

○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	
令和 3 年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ % 令和6年度当初予算にて追加
令和 4 年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない</p>	
(評価) 2	<p>農業における生産力向上と持続性の確保については、近年社会の関心が高まっており、スマート農業技術の導入・普及に向け産地における効果を明らかにする必要がある。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価)	
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている</p>	
(評価)	

### (今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 スマート農業技術の導入・普及を促進するためには、環境負荷や資材の低減、外的要因による食料安定供給への影響低減効果だけではなく、経営効果を明確にする必要がある。</p>
--

### (次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 農業における課題解決に向けてスマート農業技術が期待されており、技術の導入・普及を図るため、引き続き実証を行っていくとともに、実証成果を情報発信していく必要がある。</p>
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	<p>【〇〇課】</p>